

私たちが大切にしている創業の精神

「誠実をもって社会に奉仕する」

創業者の一人である関本巨が残したこの言葉は、今も脈々と受け継がれるBXグループの原点です。関本は常日頃から「誠実と奉仕」という言葉を持ち出し、「洋の東西を問わず、又古今を通じて、われわれ人間が社会に住みついていく以上、すべて相手の立場を尊重して自己を向上させてこそ、われわれの存在価値があり、これらの究極の目的を達成させるために欠かせない要素を沢山もっている」として、自身のモットーにしています。

一つの会社が発展するか否かはその信用度合いにあり、仕事はあらゆる面において誠実であるべきというのが、今も受け継がれる創業の精神です。この創業の精神に込められた「誠実をもって奉仕することで社会に認められ成長する」という理念に基づき、私たちBXグループは今日に至る成長を遂げてきました。今後も私たちは「誠実と奉仕」を原点に、変化する社会課題に真摯に向き合い、社会の発展に貢献していきます。

社是

誠実 誠実とは心のふれあいである。真心のふれあいでは信頼は生まれる。

努力 努力とは創造する行為の持続力である。

奉仕 奉仕は自発的な行為、行動でお客様や社会のお役に立つこと。

もう一人の創業者、東海亭は裸一貫から「努力」一筋で道を切り拓いてきた人でした。BXグループの社是は二人の創業者の人生観を表しています。

経営理念

私たちは、常にお客様の立場に立って行動します
 私たちは、優れた品質で社会の発展に貢献します
 私たちは、積極性と和を重んじ日々前進します

2017年、BXグループの行動の指針であるこの経営理念に「私たちは」という言葉が加わりました。現会長の潮崎は、従業員一人ひとりの「主体性」「自主性」がBXグループのブランドを創り上げ、持続可能な成長を遂げる原動力と考え、行動の指針である経営理念に「私たちは」を加え、より強いアイメッセージとしました。これには一人ひとりがBXグループのあるべき姿を明確にイメージし、行動の礎となる経営理念を体現することでBXブランドを形成して欲しいという願いが込められています。

コーポレートブランド

BX Bは文化シャッター、Xは未知数、無限性、掛け合わせる力を意味します。何を掛け合わせるかによって、常識を超えたイノベーションが生まれ、それは無限に広がる可能性を秘めています。そしてこの鮮やかなスカイブルーは、BXグループがめざす『快適環境創造企業』として、地球環境の美しさを象徴する青空の広がりイメージしたものです。



編集方針

本レポートは、持続可能な社会の構築をめざしたBXグループの活動や、今後めざすべき方向性についてステークホルダーの皆様にご理解いただくために発行しています。

2023年度版のポイント

- これまでの価値創造の変遷や企業としての成長を振り返り、改めて私たちが継承すべき精神やめざすべき姿についてグループ全従業員で確認し、これから迎える未来に向けた取り組みをステークホルダーの皆様と共有する内容となっています。
- ESG投資の拡大を受け、当社グループの持続可能な社会に向けた取り組みをESGの枠組みで整理し、E(地球と共に) S(社会と共に・働く仲間と共に) G(成長と共に)ごとに活動報告を掲載しています。
- BXグループでは「人と地球の快適環境」を実現することが社会における使命と捉えています。特集では、快適環境の追求によるBX-CSV (BXグループと社会の共通価値の創造)の取り組みを紹介しています。

参考にしたガイドラインおよびガイダンス

- ・価値協創のための統合的開示・対話ガイダンス
- ・GRI「サステナビリティ・レポート・スタンダード2016」
- ・ISO 26000：社会的責任に関する手引き
- ・環境省「環境報告ガイドライン(2018年版)」
- ・国際統合報告フレームワーク



報告対象期間

2022年度(2022年4月～2023年3月)を報告期間としています。ただし一部2023年度の報告も含んでいます。組織・役職は2023年11月現在のものです。

報告対象範囲

BXグループ全体を対象としています。文化シャッターのみ、あるいは特定の会社に限られる場合は本文中にその旨を明記しています。グループ全体を指す場合は「BXグループ」と表記しています。

将来の予測等に関する注意事項

本レポートにはBXグループの将来に対する予測・予想・計画等の記載がありますが、これらは現時点での情報に基づいた仮定および判断です。今後事業環境等の変化により影響を受ける可能性があります。

発行日

2023年12月(次回発行日2024年10月予定)

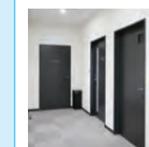
CSRに関する情報開示の全体像



目次

理念体系	1
編集方針・目次	2
トップメッセージ	3
価値創造のあゆみと企業成長	5
価値創造プロセス	7
BXグループのめざす姿	9
経営資本	10
BXグループの強み	11
グループシナジーとBX-CSV	12
事業別概況 基幹事業	13
事業別概況 注力事業	14
中期経営計画(2021～2023)	15
財務ハイライト	16
数字で見るBXグループ	17

特集：脱炭素社会の実現とSDGs達成に貢献 接着工法と軽量化でスチールドア業界の常識を変える



環境配慮型スチールドア「SGD」～スチールドアの新たな可能性～ 19
 スチールドア業界の課題解決と市場の拡大に向けて 21

サステナビリティマネジメント	23
CSR4憲章マテリアリティとKPI	25

E 地球と共に BXグループの環境経営	27
環境マネジメント	28
サプライチェーン・マネジメント	28
TCFDへの賛同	29
脱炭素化に向けた活動	31
資源循環の推進	33
環境人材の育成	33
自然との共生	33

S 社会と共に 企業市民としての社会貢献	35
人道的社会貢献	35
文化活動の支援	35

S 働く仲間と共に 人権の尊重	36
人材に関する基本的な考え方	37

G 成長と共に コーポレート・ガバナンスの推進	40
取締役会議長メッセージ	44
社外取締役メッセージ	44
リスクマネジメント	45
グループの成長・発展	47

第三者保証 / 第三者意見	48
会社概要	49
用語集	50

快適環境の追求により 社会との価値共創に取り組み、 持続的に成長する企業へ

BXグループは2006年にスタートした10年の経営展望において、「快適環境のソリューショングループ」を当社グループがめざす姿として長期ビジョンに掲げました。以来、快適環境を社会に提供し続けることを使命に、時代に応じた多彩なものづくりを愚直に続けてきました。当社グループの商品・サービスを通じて、将来世代にわたって健全な地球環境のもとで安心・安全、そして快適に暮らし続けることができる社会をめざし、人と地球の快適環境を追求することが当社グループのありべき姿です。

代表取締役社長 執行役員社長

小倉博之

中期経営計画の進捗

2021年度にスタートした中期経営計画は、快適環境を追求することで急激に変化する社会環境に主体的に対応し、未来志向で事業の発展に取り組む3ヶ年の事業計画です。

2年目となる2022年度はロシアのウクライナ侵攻に起因するエネルギー不足や原燃料の価格高騰、インフラや銀行破綻など、コロナ終息を待たずして起こるさまざまな予期せぬ社会変化に対し、迅速な対応力が問われる年となりました。特に原材料の価格高騰や世界的な半導体不足は、当社のサプライチェーンも大きく影響を受け、さらなる強靱化への教訓となりました。

一方で事業環境を振り返りますと、物流倉庫や生産工場等の大型物件の増加や、都市再開発プロジェクトへの投資拡大により、市場が好調に推移したことで基幹事業のシャッター・ドアで売上を伸ばしました。注力事業においては、脱炭素化への移行や気候変動によって甚大化する自然災害への備えとして、エコ&防災事業が確実に成長しています。

温暖化対策や防災は世界共通で取り組むべき喫緊の課題

です。事業活動でこの難題の解決に最大限貢献するために、遮熱性や断熱性、また止水性能の向上をはじめ、エコ&防災分野における新たな価値創出にも引き続き取り組んでいきたいと考えています。

海外事業においては、BX BUNKA AUSTRALIAにおいてM&Aを進め、住宅市場だけでなく、産業・商業施設市場向けの商材を拡充する体制を整えました。中期経営計画においては海外事業の売上構成比10%を掲げており、特に成長が期待できるオーストラリアにおいては、シナジー効果により収益を拡大させたいと考えています。

2022年度の連結経営成績は、2期連続の増収で過去最高の売上高となり、前中期経営計画における「成長戦略の構築」を基本方針とした収益基盤と成長基盤の2軸による事業区分の整理が機能し、成長モデルが確立したことに手ごたえを感じています。しかし、先行き不透明な社会において決して楽観視できる結果とは考えていません。今後も原価高騰の流れは続くものと捉えており、適正な価格改定を進めるほか、生

産設備刷新のための投資を実施し、生産性向上に向けた改革を進めているところです。

その一例として、当社では運送会社と各工場が情報を共有する新物流システムの順次導入を進めており、物流の効率化を図っています。さらに営業、製造、施工が情報を共有しながら連携することでリードタイムを短縮できる基幹システ

人材の融合が生む技術革新

社是・経営理念を共有した人材は、当社グループにとって大切な資産です。志を共にした従業員一人ひとりの人材力の総和によって事業基盤が強化されることは言うまでもありません。企業理念にも掲げている積極性と和を重んじる文化が着実に受け継がれており、特に社長に就任してからは、従業員同士が、積極性を重んじながら和を以て協力する精神を持つことの大切さを私自身も感じています。「人を大切にする会社」を実践することは、歴代社長から受け継いだ私の使命の一つです。人材を資本と捉え、その価値を最大化することによって企業成長へとつなげる人的資本の考えが、今、主流になっていますが、「人を大切にする」考えに通じるもので

BXグループと社会のサステナビリティをめざして

社会の持続可能性を高めるための施策は、当社グループの事業リスクを回避し、また持続的な企業成長を促すものです。当社では、中期経営計画においてESGの目標を定め、取り組みを強化することで将来的、潜在的なリスクと機会を見極め、経営のレジリエンス向上をめざしています。

BXグループ環境ビジョン「Blue neXpand 2050～未来にひろげよう青空を～」では、快適環境のソリューショングループとしてめざす未来の姿と、それを実現するために取り組むべき重点領域を明確にし、脱炭素化への移行や廃棄物ゼロをめざしたゼロエミッション、生態系の保全等に取り組んでいます。

特に気候変動については、事業活動や生産プロセスを含め、当社の商品・サービスの提供を通じた温暖化防止や自然災害のリスク軽減に注力しており、2022年度はスチールドアの組立に接着工法を採用した環境配慮型スチールドア「SGD」の販売を開始しました。接着工法は環境にやさしく溶接時

ステークホルダーの皆様へ

私が全国の拠点に赴いた際には、「未来を創るのは今の自分」と因果の道理を引用して従業員に話をするようにしています。人材力の総和を上回る相乗効果は、当社グループのパーパスに自らの未来を重ね、未来志向で仕事をする従業員の主体的行動によって生まれるものだと思っています。志を共に

ムを構築し、業務効率化をめざしたDX化を進めています。このように「Speed&Action」を合言葉とした対応力のある組織づくりに注力し、社内の改革をさらに推し進め、より一層実行力を高めることで、中期経営計画の最終年度となる2023年度は、売上成長を超える利益成長を果たす結果に期待を寄せています。

あると私は解釈しています。

当社では、従業員一人ひとりがライフスタイルに合わせ、個性や能力を発揮できる環境づくりや、ダイバーシティ&インクルージョンを推進していますが、考え方や価値観の異なる人材が融合することで新たな価値が生まれ、BXならではの技術革新を実現すること、これが、当社グループがダイバーシティを推し進める理由です。事業領域に限らず、さまざまな専門性やスキル、経験を持つ人材の融合が、当社グループのソリューション力を高め、新たな価値創造の原動力になると考えています。

の作業環境が改善されるだけでなく、作業時間の短縮や、鋼材の軽量化も可能にし、多くの課題解決にアプローチする工法です。当社は日本サッシ協会と協力し、この接着工法を国土交通省監修の「公共建築工事標準仕様書」に追加記載することに尽力しました。さらにスチールドア業界全体が抱える課題の解決につながるこの工法を業界全体に浸透させることを目的に、全国の中小ドアメーカーに赴き、接着工法の指導・教育にも取り組んでいます。

スチールドアをご使用下さるお客様のみならず、生産者や運送従事者、さらには地球環境などさまざまな場面での「快適環境」を実現するこの接着工法の拡販によって、当社としても収益を拡大させたいと考えています。これは当社の快適環境への追求によって生まれた社会との価値共創の一例です。今後も社会との価値共創に取り組み、持続的に成長する企業へ歩みを進めてまいります。

する従業員と、BXグループの未来に向け邁進する所存です。「人と地球の快適環境」を実現する、この当社のパーパスに賛同して下さるステークホルダーの皆様のご期待に沿えるよう、今後も持続的な成長と企業価値の向上に取り組んでまいります。

価値創造のあゆみと企業成長

創業者から受け継いだ「奉仕」の精神と、社会課題に取り組む姿勢がグループを成長させる礎となり、今日のBXグループへと発展させました。今後も絶えず変化する社会課題とより深く関わり、価値創造への取り組みを追求することで、「快適環境のソリューショングループ」として進化し続けます。

創業期(1955年から)

徹底的なユーザー視点

文化シャッターの創業は1955年。「お客様第一主義」とも言うべきユーザー視点から誕生した会社でした。以来、お客様に喜んでいただける商品・サービスの追求とそれを支える技術の研鑽に努め、BXグループの発展の礎を築きました。

1958 前処理防錆技術「パーカーライジング法」

業界で初めて防錆処理を導入し、旋風を巻き起こしました。



1959 軽量シャッターの電動化を実現

巻取り機構の収納スペースを必要としない電動式軽量シャッターを開発。これを基盤に、重量電動部門と軽量電動部門の2つの道を歩むことになりました。

1968 業界初の住宅用窓シャッターを発売

「ブラインド雨戸ミニ」は、住宅用に軽量化された画期的な商品でした。多様化するライフスタイルにふさわしい新しい住宅建材として一大ブームを起こしました。



1970年から

総合建材メーカーへ

大阪万博(EXPO'70)で幕を開けた1970年代。文化シャッターは、将来を見据えて住宅用建材事業やビル用建材事業に本格参入し、シャッター事業と共に3つの市場で新たな価値を提供する総合建材メーカーとして歩み始めました。

1973 全国初ユニットバルコニーを発売

鉄工所で製作していたバルコニーを、ユニットバルコニーとして規格化し発売。ビル用建材では、学校向けパーティション、軽量鋼板ドア、店舗用装飾テントなど相次いで商品化し、事業の枠を広げました。

1974 防災シャッターの開発

多くの死傷者を出した大阪千日デパートの火災を契機に、防火性、防煙性に優れたシャッターを開発し、社会の要請に応えました。



1982 アフターサービス体制を強化

24時間365日サービス体制を確立し、次いで1986年には業界で初めてサービスカーに「カー無線」を導入しました。



1990年から

高付加価値への挑戦

1992年3月に売上高1,000億円を達成。さらなる高みをめざし、「技術力」を駆使した特殊物件への挑戦や、省エネに優れた環境配慮商品の提供など、ユーザー視点に基づいた高付加価値商品やサービスへの追求に拍車がかかりました。

1991 業界初、耐火試験炉を完成

桶川テクニカルセンターに自社内試験炉を導入。耐火性の高い商品開発の迅速化につながりました。



1999 省エネ効果の高い環境配慮商品の開発

高速シートシャッター「エア・キーパー大間迅」が誕生。開閉速度は通常シャッターの10倍以上で気密性、耐風性が高く、省エネに優れた商品として注目を集めました。



2000 試験・検証施設「試験センター」を開設

桶川テクニカルセンターの機能を拡充。自社内の試験設備を充実させ、検証データを蓄積することで「技術力」の向上と商品化へのスピードアップにつながりました。



2005年から

快適環境のソリューショングループへ

2006年に掲げた「快適環境のソリューショングループ」は健やかな地球環境のもとで人々が快適に暮らすために生活全般をソリューションするBXグループのあるべき姿です。持続可能な社会への貢献がグループの成長・発展につながる課題解決型の経営への探求が始まりました。

2007 循環型社会に貢献する環境配慮商品の開発

廃木材と廃プラスチックを原料とした木材・プラスチック再生複合材「テクモク」を発売。廃棄物の削減や資源保護、環境保全への配慮で循環型社会の実現に貢献しています。



2008 「BX BUNKA VIETNAM CO.,LTD.」を設立

2010年にハノイ郊外の工業団地内に竣工した工場でシャッター・ドア等の生産を開始しました。これを足掛かりにASEAN諸国を中心とした海外展開が進みました。

2010 太陽光発電システム事業に参入

金属加工のノウハウや全国にわたる建築関係の商流、施工体制などの経営資源を活用した事業として再生可能エネルギーの普及促進に貢献しています。



2012年から

さらなる快適環境の追求

マーケットインの発想をより進化させ、お客様の生活全般を捉える「ライフ・イン」とお客様との持続的な信頼関係を築く「ライフロング・パートナーシップ」をソリューションの基軸に据え、快適環境のさらなる追求により持続可能な社会の実現と企業価値の向上に取り組んでいます。

2012 浸水から社会を守る止水事業に参入

業界に先駆けて止水事業を立ち上げ、オリジナルの止水商品を開発、発売。自治体や企業などのBCP対策に採用いただき、「超」モノづくり部品大賞(生活関連部品賞)などの評価をいただいています。

2017 ライフィン環境防災研究所に名称変更

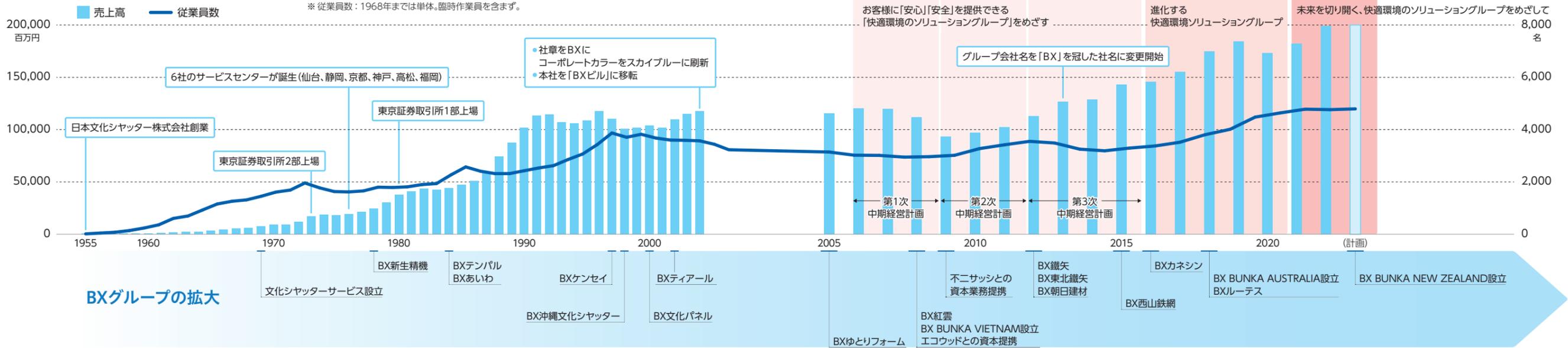
2008年、より一層の開発スピード向上を図るため「試験センター」に新たなコンセプトを加えた「ライフィンセンター」を開発。2017年には事業テーマ「エコと防災」にちなみ、「ライフィン環境防災研究所」として生まれ変わりました。国際規格ISO/IEC 17025を取得した試験施設として認定されており、BXグループの「技術力」を支えています。



2021 事業の脱炭素化への取り組みを開始

2050年までに事業活動における脱炭素化を宣言。環境ビジョンを策定し、環境負荷の低減のみならず、環境へのプラスの価値を創造し、快適環境を次世代へとつなぎます。

BXグループの成長

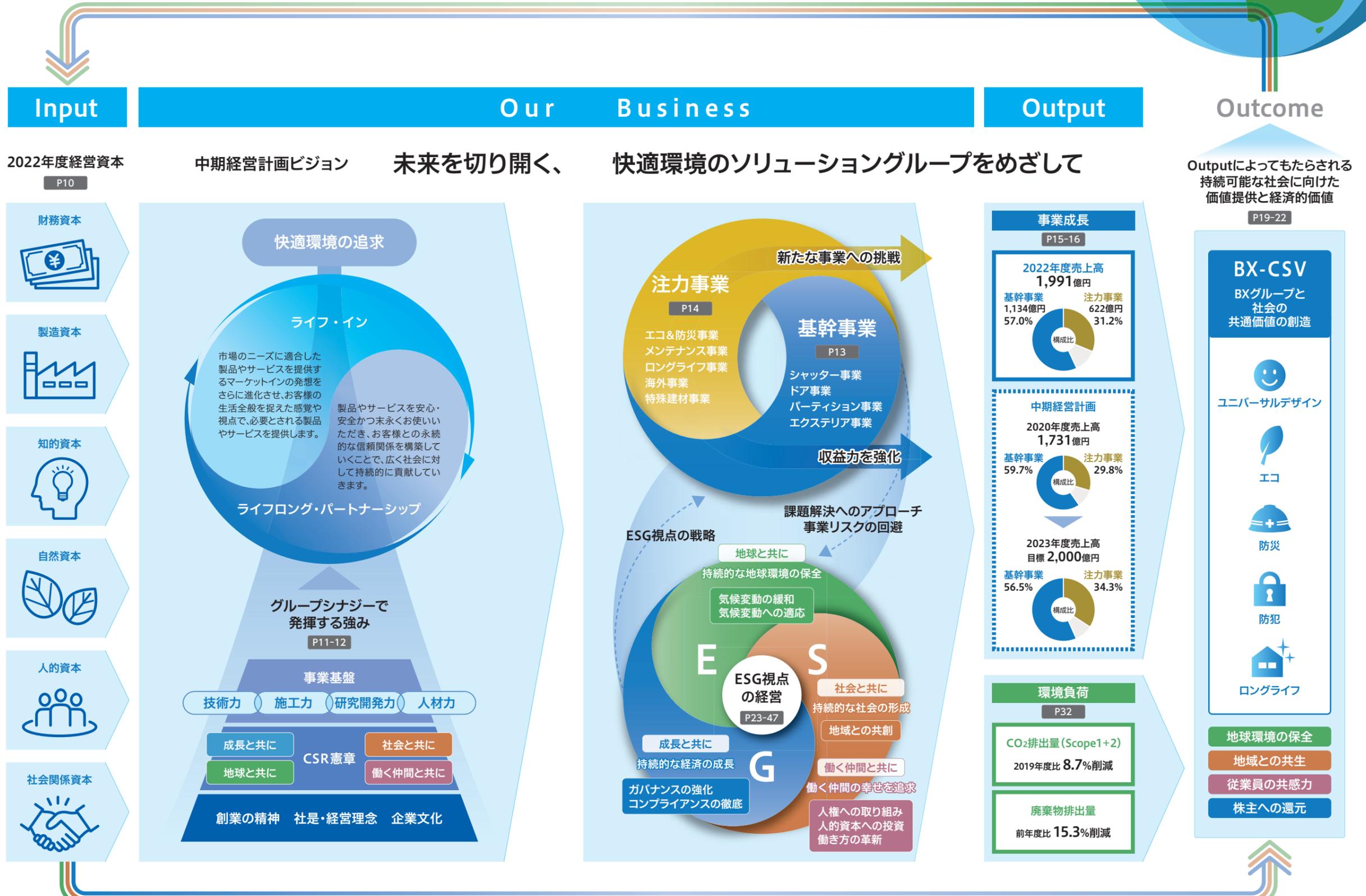


価値創造プロセス

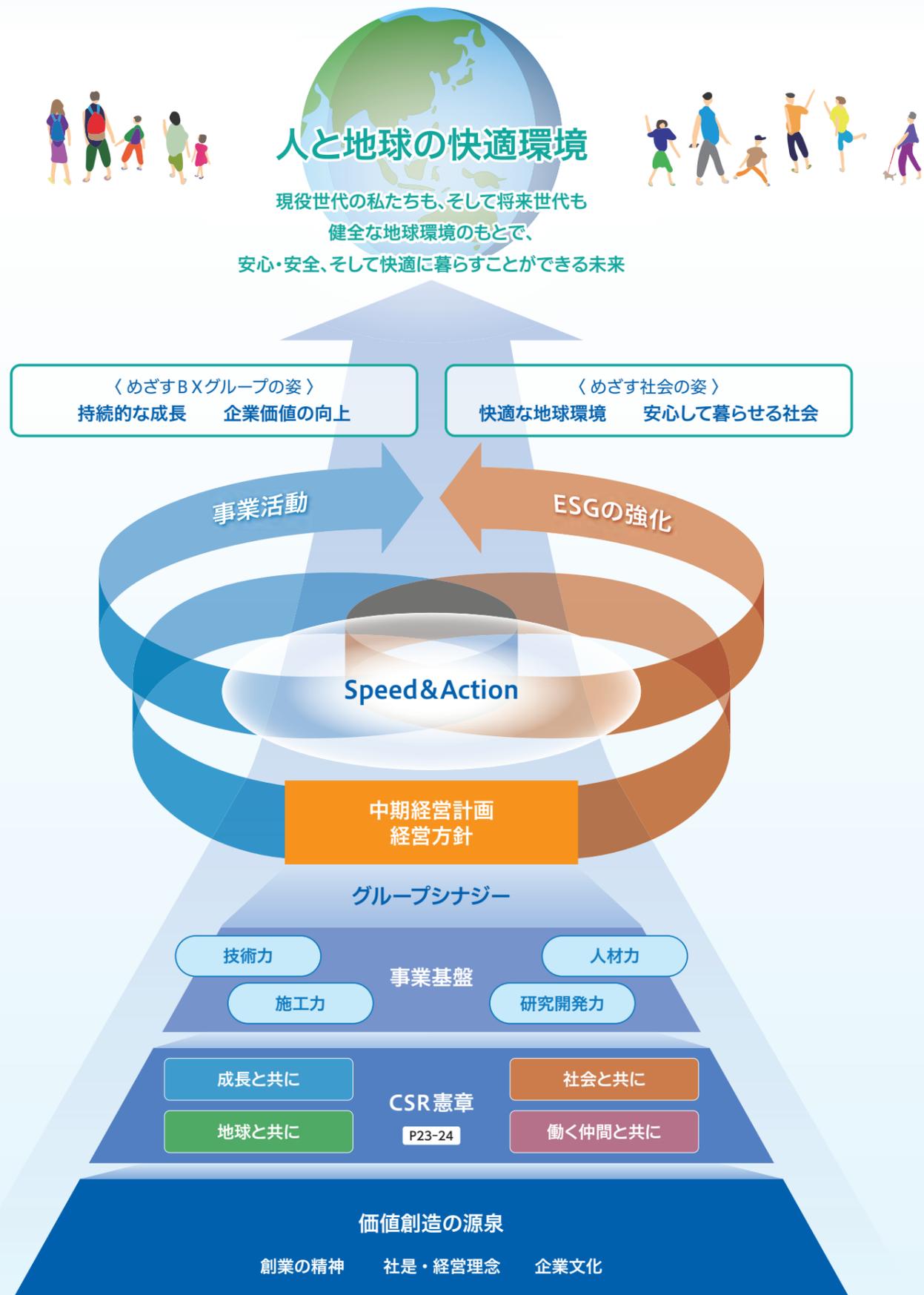
創業以来培ってきた「技術力」「施工力」「研究開発力」を強みに、グループ間連携によるシナジー効果を発揮することで、新たな価値を時代に先駆け提供する価値創造プロセスの実現に取り組んでいます。独自の成長モデルである「BX-CSV」(社会と共有する価値の創造)による持続可能な社会への貢献により、さらなる企業価値の向上をめざします。



人と地球の快適環境
持続可能な社会



BXグループのめざす姿



経営資本

創業以来積み重ねられてきたさまざまな形態の資本は、「快適環境」を追求する私たちの事業によって、持続可能な社会を実現するための価値となって創出されます。私たちはこれら資本を維持、強化し続けることで、社会の持続性とBXグループの成長性を高めていきます。

<p>財務資本</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● ROE 9.6% ● 自己資本額 826億円 ● フリーキャッシュフロー 5,946百万円 	<p>資本コストとバランスシートを意識した健全性の高い財務基盤で持続的成長を支えます</p> <p>最適資本構成の方針に基づき、投資と株主還元のパランスを重視した経営戦略を推進しています。シャッター・ドアを中心とした基幹事業により安定的な収益を確保し、成長戦略のための投資を継続しています。</p> <p>関連情報 ▶ P16 財務ハイライト</p>
<p>製造資本</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 生産ネットワーク 国内26拠点 海外11拠点 ● 設備投資額 4,729百万円 	<p>生活全般を捉えたライフ・インの視点による多彩なものづくりで快適環境を実現します</p> <p>マーケットインの発想をさらに進化させたライフ・インと、お客様との持続的な信頼関係を構築するライフロング・パートナーシップをコンセプトに、時代や環境の変化に応じたものづくりで、快適環境を実現します。</p> <p>関連情報 ▶ P15 中期経営計画</p>
<p>知的資本</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 研究開発費用 2,441百万円 ● 特許出願公開 80件 ● 登録権利取得 97件 	<p>創業から60年以上にわたり培われてきた当社グループの技術力は「付加価値づくり」の基盤です</p> <p>BXグループが誇る技術力と研究開発力は、社会と共有する価値の創造をめざした成長モデル「BX-CSV」の構築を支えるコアコンピタンスです。</p> <p>関連情報 ▶ P11 技術力</p>
<p>自然資本</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● BXグループエネルギー使用量 12,694kl ● 水使用量 143,869m³ 	<p>効率的なエネルギーの使用より、環境負荷ゼロとプラスの価値創造に取り組みます</p> <p>エネルギーの効率使用と脱炭素化を進め環境負荷をゼロにするだけでなく、快適環境の追求により環境へのプラスの価値創造に取り組んでいます。</p> <p>関連情報 ▶ P32 環境負荷の全体像</p>
<p>人的資本</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● グループ従業員数 4,958人 ● 中途入社者比率 81.6% ● 新卒女性採用比率 27.1% 	<p>理念とパーパスを共有する多様な人材がソリューション力を発揮することでBXブランドの醸成を図ります</p> <p>急激に変化する社会環境にスピーディに対応するソリューション力を醸成することで人材の価値を最大限に高め、持続的な企業価値向上をめざします。</p> <p>関連情報 ▶ P37-39 人的資本</p>
<p>社会関係資本</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● グループ会社数 20社 ● 主要サプライヤー 約160社 	<p>地域に根差したネットワークと信頼性の高いサプライチェーンに支えられています</p> <p>積極的なM&Aを進め、グループシナジーの最大化を図っています。さらに健全なサプライチェーンを構築するため、サプライヤーと定期的にコミュニケーションを図り、信頼関係を大事にしています。</p> <p>関連情報 ▶ P28 サプライチェーン・マネジメント P45 CSR調達に関するガイドライン</p>

BXグループの強み

BXグループは創業以来培ってきた「技術力」「施工力」「研究開発力」を強みに新たな価値の創造に挑戦し続けています。

技術力

創業当初から課題解決型の技術開発で新市場を切り開き、時代の変化に応じた価値創出への挑戦によって磨かれてきた技術力は、BXグループが誇る強みです。当社グループならではの価値あるソリューションをいち早く社会に提供するために、産官学連携の共同研究やプロジェクトで技術力の研鑽に取り組んでいます。



高遮音スチールドア

2022年度には遮音性を高めた「高遮音スチールドア」が「2022年“超”モノづくり部品大賞」の生活・環境ソリューション関連部品賞を受賞しました。従来の遮音ドアに比べ、高い遮音性を担保しつつ、軽い操作性と意匠性を実現しています。近年ではサテライト用の個室オフィスや小規模会議室等で音への配慮として高遮音性能の需要が高まっており、当社の技術が活かされています。

施工力

BXグループの商品価値がお客様のもとで最大限に発揮されるには、高い施工力は欠かせません。当社では、「工事能力」「施工品質」「施工効率」の3分野を向上させることで価値ある建物空間の創出に取り組んでいます。



シャッター技能研修

- **工事能力の向上** 施工力の基盤強化を図るため「設計施工 理念と行動」を定めています。また、請負工事のみならず、工区内製化に向けた工事員の増強を進め、工事員の能力向上や多能工化をめざした教育プログラムを東西2拠点で年間30回以上実施しています。
- **施工品質の向上** 独自の資格制度を設け、特定の製品については専門的な研修を受講した認定工事員のみが施工できるなど、安定的な施工品質の確保に努めています。
- **施工効率の向上** 施工マニュアルをデジタル化することで製品改良による施工方法の変更等にも迅速に対応できるようにしています。

研究開発力

ライフィン環境防災研究所では、各種性能試験や基礎技術の研究および商品の評価、安全性の検証、さらには評価基準の設定までを実施し、総合的な試験・研究施設としてBXグループの技術力を支えています。



ライフィン環境防災研究所



3次元大型振動台耐震試験装置

さらに、国際規格ISO/IEC 17025の認定を取得した試験施設として、グループ内だけでなく、外部からの委託試験を受け入れ、第三者機関として客観的な評価をしています。また、大規模地震発生時においても当社グループの商品が確実にその機能を発揮し、お客様に安心・安全にご使用いただくために、耐震性能を確認する3次元振動台耐震試験装置を導入し、地震に強い建材づくりに取り組んでいます。

VOICE

商品開発部 開発四部 係長 瀧川 弘幸



利便性を追求し、当社独自の遮音構造を開発したことで扉の厚さを変えることなく、一般的なスチールドアと同じ軽い操作性と高い意匠性を実現し、高い遮音性を確保することが可能となりました。多様な用途に合わせ、小窓付きやバリアフリーを含むさまざまな仕様をラインアップしています。

VOICE

設計施工企画部 松原 拓実



工事員を対象とする教育プログラムの充実化を図るほか、当社に在籍する経験の浅い設計職、工事職および施工管理職を対象とした教育プログラムにも注力しています。製品取付や施工に関わる電気知識など、幅広い領域の教育を行うことで、施工能力の全体的な底上げを図っています。

VOICE

ライフィン環境防災研究所 主任 山崎 良太

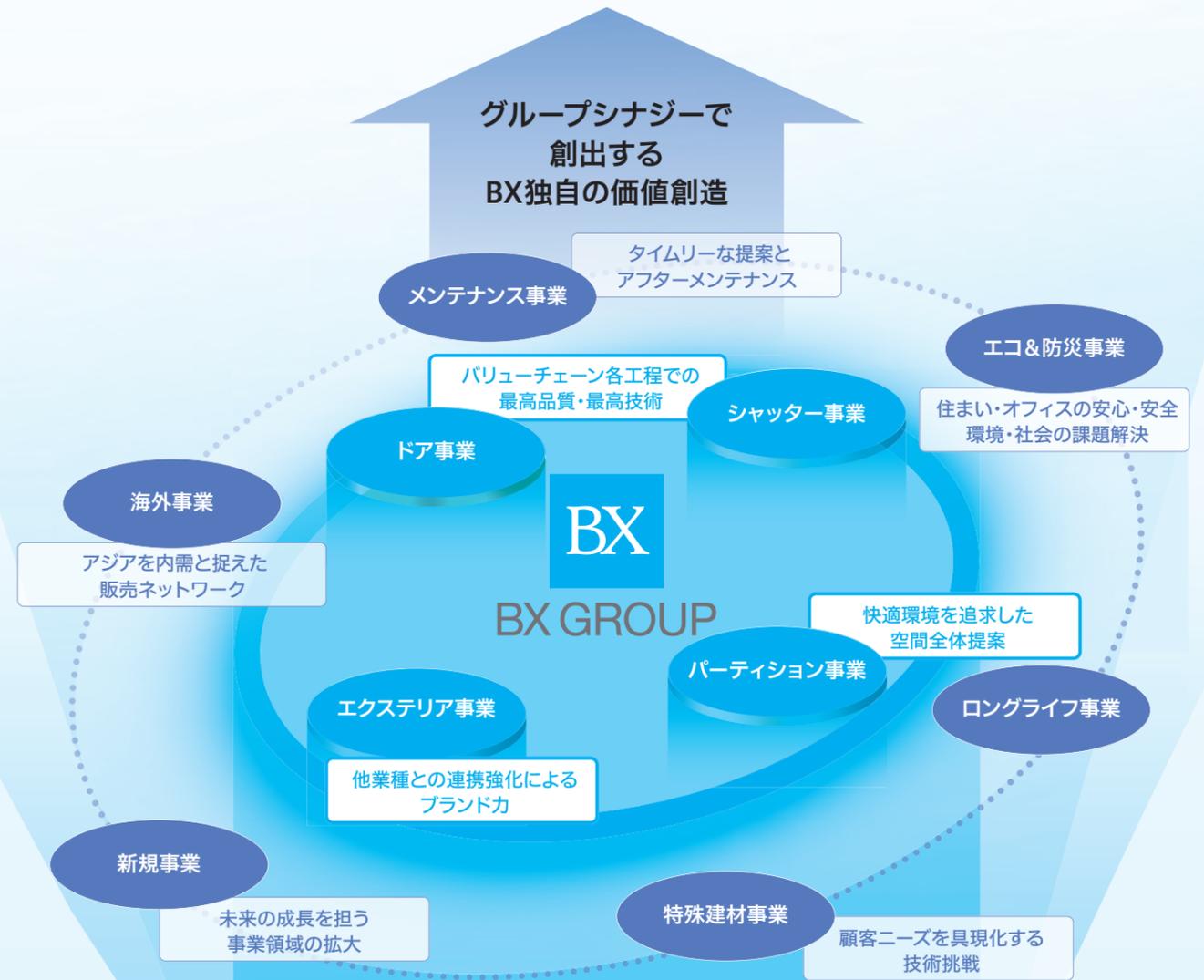


3次元振動台のほかにも、甚大化した台風や突風などによる飛来物から、建物内を防護するための性能を確認する飛来物衝突試験装置を導入するなど、課題に応じた評価試験の充実を進めています。今後も商品の各種評価を通じて、お客様のさらなる安心・安全の実現に向けて取り組めます。

グループシナジーとBX-CSV

BXブランドを飛躍させ、快適環境を創造するソリューショングループを極めるため、グループ間連携によるシナジー効果を発揮することで、新たな価値を時代に先駆け提供する価値創造プロセスの実現に取り組んでいます。

社会と共有するBX独自の価値創造モデルである「BX-CSV」のさらなる追求により、企業価値の向上をめざします。



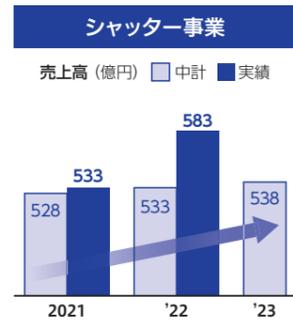
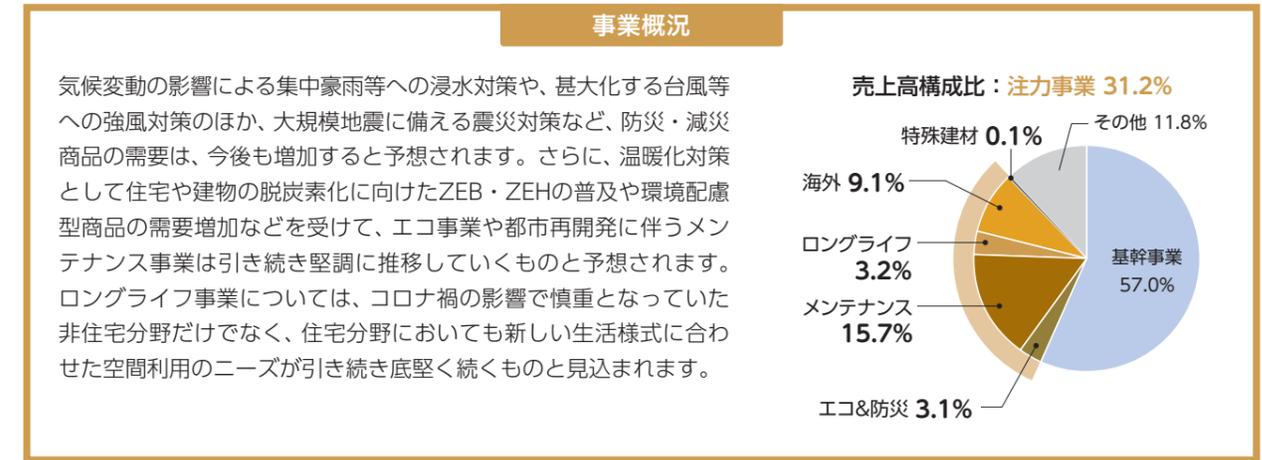
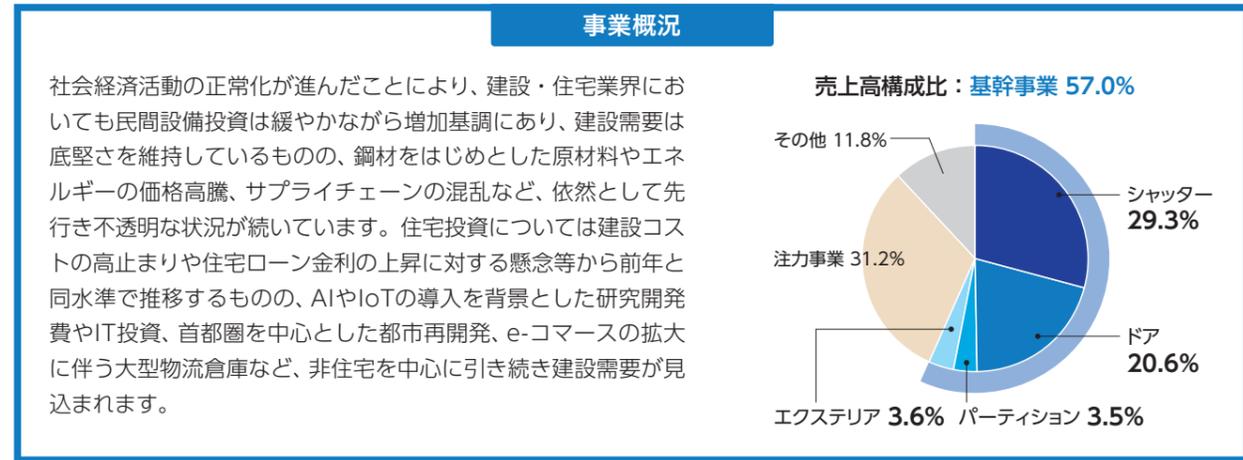
基幹事業

創業当初よりBXグループの成長を支えてきたシャッター、ドア等を製造・販売する基幹事業では、防火・防犯はもとより、防風・防水、ユニバーサルデザイン化やIoT化など、変化する社会のニーズを捉え、生活者の視点に立った商品開発により、人々の暮らしやビジネスシーンを支えています。



注力事業

注力事業では、地球環境への負荷を軽減する「緩和」と気候変動に伴う災害に備える「適応」に貢献するエコ&防災事業をはじめ、事故や故障を未然に防ぎ、安心・安全にご利用いただくためのメンテナンス事業、都市の強靱化や住環境の変化に対応するロングライフ事業および海外事業を展開しています。



中計戦略 重量シャッター：大型物流倉庫を中心に都市再開発物件も含めた受注拡大
軽量シャッター：操作性や開閉速度の向上など高付加価値商品の拡販
窓シャッター：既存窓シャッターのメンテナンスおよび電動化の推進

進捗 工場や大型物流倉庫および大型商業施設向け重量シャッターの拡販が牽引し、売上高583億円(計画値比9.4%増)。

展望 引き続き堅調に推移するとみられる工場・倉庫・再開発物件向けシャッター群の拡販およびIoT対応の電動タイプを中心とした高付加価値商品の拡販により収益拡大につなげていきます。

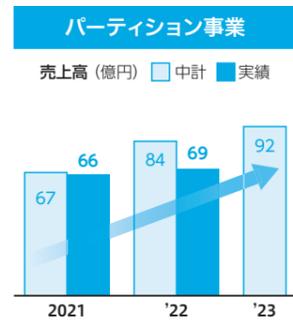


中計戦略 都市圏において堅調に推移する再開発物件を中心に、ビル用ドア商品の受注拡大とグループ会社とのシナジー効果の最大化を図り、生産力を強化

進捗 大型商業施設向けスチールドアの拡販が牽引したものの、中計には及ばず売上高410億円(計画値比1.0%減)。

展望 接着工法と軽量化による環境負荷低減と働き方改革につながる環境配慮型スチールドア「SGD」の拡販を積極的に推進し、収益拡大につなげていきます。

関連情報 ▶ P19 特集
「接着工法と軽量化でスチールドア業界の常識を変える」



中計戦略 地震動対策機能を追加した学校用間仕切など、安心・安全を追求した高付加価値商品の提案を推進

進捗 幅広い用途に対応したトイレブースと学校用間仕切の拡販が牽引したものの、中計には及ばず売上高69億円(計画値比17.9%減)。

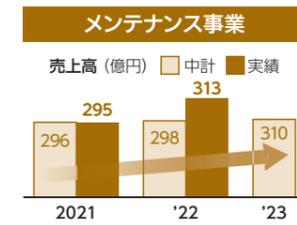
展望 洋式化やバリアフリー化などに対応したトイレブースや、耐震化や長寿命化が求められる学校施設の間仕切などを中心に、引き続きストック市場の掘り起こしに注力することで、受注拡大をめざします。



中計戦略 気候変動への緩和と適応を実現する環境配慮型商品と防災商品の普及拡大

進捗 止水事業の受注減少に伴い、防災事業の売上高が減少し、売上高61億円(計画値比17.6%減)。

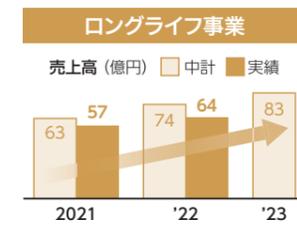
展望 遮熱対策となるオーニングや豪雨等への浸水対策となる止水製品などの需要の高まりを背景に引き続き気候変動リスクに対応するエコ&防災事業の売上を拡大していきます。



中計戦略 BXグループの連携による保守点検&修理対応の強化拡充

進捗 法定点検を含めた定期保守メンテナンス契約および緊急修理対応が牽引し、売上高313億円(計画値比5.0%増)。

展望 BXグループの連携強化による顧客開拓で建築基準法で義務化されている防火設備の法定点検の受注を拡大していきます。



中計戦略 住宅リフォーム&ビルリニューアル提案の強化

進捗 商材の納期遅延が解消した住宅リフォーム事業と、収益力を強化したビルリニューアル事業が共に牽引したものの、中計には及ばず、売上高64億円(計画値比13.5%減)。

展望 住宅省エネキャンペーンの助成金を活用した住宅リフォーム事業と、耐震や止水をキーワードとしたビルリニューアル事業を強化していきます。



中計戦略 事業基盤の強化および海外事業売上高比率10%に向けた事業拡大の推進

進捗 産業向けシャッターメーカーMAXDOOR社をグループ化した豪州事業が牽引し、海外事業売上高比率は1.7%アップの9.1%に向上、売上高181億円(計画値比36.1%増)。

展望 BX BUNKA NEW ZEALANDと、豪州で新たにグループ化したDOORWORKS社、SPRINT ROLLER SHUTTERS社によるオセアニアでの住宅向けガレージドアおよび産業・商業向けシャッター事業を拡大すると共に、ベトナムにおいては引き続きローカル市場向けの売上拡大を強化していきます。

中期経営計画(2021~2023)

時代や環境が変化しても多彩なものづくりとそれらのサービスを通じて社会の発展に貢献すると共に、安心・安全の提供により人々の幸せを実現することがBXグループの使命です。
急激に変化する社会環境に主体的に対応し、未来志向で事業の発展に取り組み、快適環境を追求します。

I. 資本コストとバランスシート経営を意識し、最適資本構成に基づき経営戦略を推進する

中期経営計画の経営指標

	2021年度実績	2022年度実績	2023年度
売上高	1,823億円	1,991億円	2,000億円
営業利益	91億円	96億円	146億円
営業利益率	5.0%	4.9%	7.3%
自己資本利益率(ROE)	8.0%	9.6%	11.5%
投下資本利益率(ROIC)	5.2%	6.8%	10.5%
B x V A	-20億円	-5億円	30億円
B x V A スプレッド	-2.1%	-0.5%	3.2%
D E レ シ オ	0.19	0.18	0.20以下
自己資本比率	48.7%	46.6%	51.9%

資本コスト

WACC	7.3%を目処
株主資本コスト	8.5%を目処
負債コスト	0.7%を目処

※ BxVA(Bx Value Addedの略)
投下資本に対する付加価値額を表す。計画値は法定実効税率30.62%として計算。

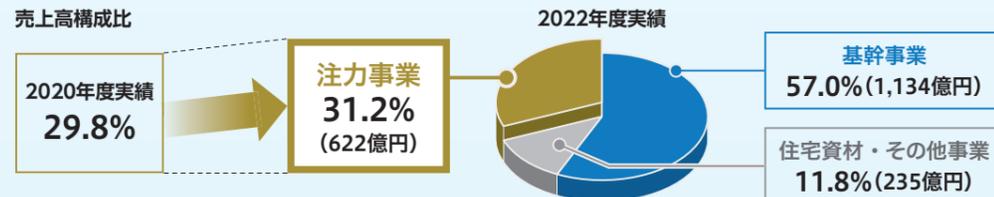
II. 自社株買いを含め、株主還元を大幅に強化する

株主還元政策	計画	実績
	<ul style="list-style-type: none"> 配当性向は35%を目安。 自己株式取得を中期経営計画の3年間で100億円+αを計画。(αはM&Aが条件や機会等の都合上計画どおりに進まない場合) 	<ul style="list-style-type: none"> 自己株式取得額 2021年度50億円 2022年度70億円

III. 基幹事業は生産性の向上を追求、注力事業は規模を拡大することで売上高構成比率34.0%超をめざす

生産性向上に向けた投資計画	計画	実績
	<ul style="list-style-type: none"> 設備投資は中期経営計画の3年間で120億円を目安に、DX推進や省人化による生産性向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 生産設備の刷新、働き方改革に伴うシステム関連投資額 2021年度37億円 2022年度47億円

注力事業の規模拡大	計画	実績
	<ul style="list-style-type: none"> M&Aは中期経営計画の3年間で、事業拡大やシナジー効果を見込める成長分野等に150億円を配分をする計画。 	<ul style="list-style-type: none"> 2023年1月 BX BUNKA NEW ZEALAND LIMITEDを設立。同年5月ニュージーランドのガレージドアの製造・販売会社であるWINDSORグループの全株式を取得。 2023年4月オーストラリアの住宅向けガレージドアメーカー DOORWORKS AUSTRALIA PTY LTDの全株式を取得 (BX BUNKA AUSTRALIA)。 2023年9月オーストラリアの産業・商業施設向けシャッター製造・販売会社であるSPRINT ROLLER SHUTTERS PTY LTDの全株式を取得 (BX BUNKA AUSTRALIA)。

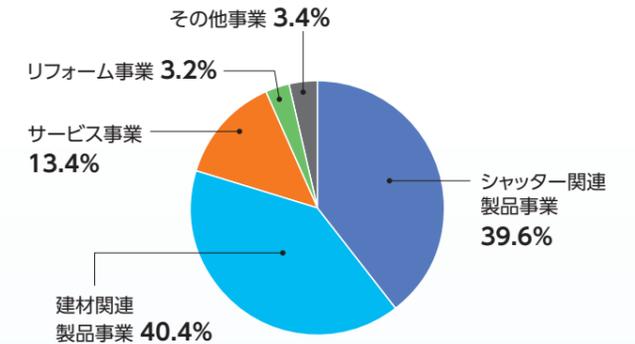


財務ハイライト

売上高/売上総利益率



セグメント別売上高構成比



営業利益/営業利益率



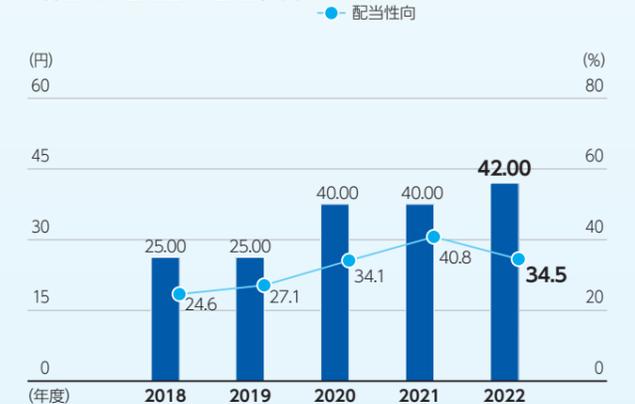
親会社株主に帰属する当期純利益/ROE(自己資本当期純利益率)



自己資本/自己資本比率

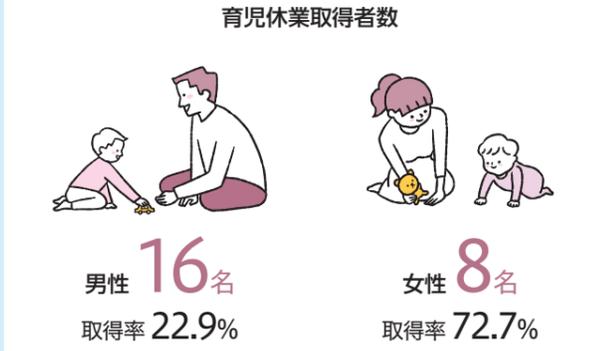
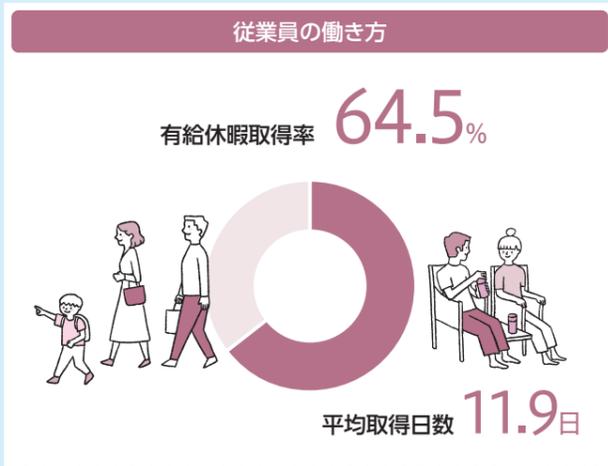
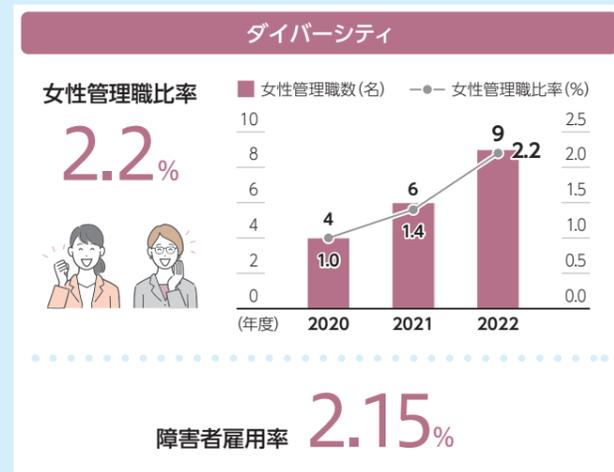
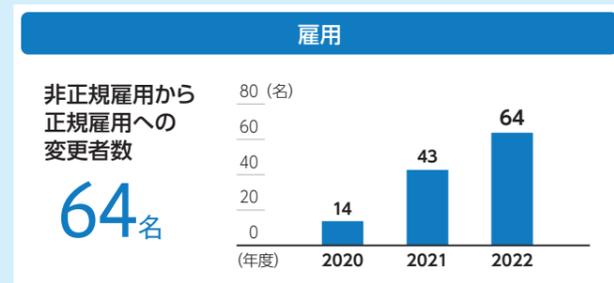
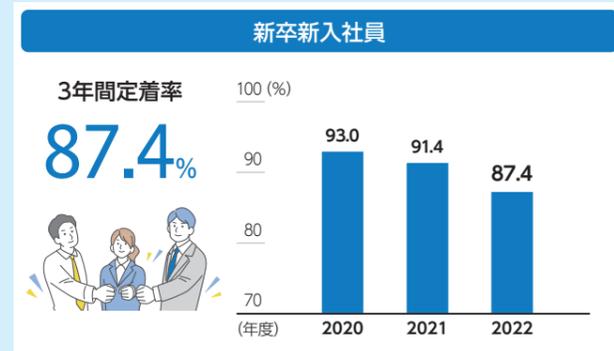
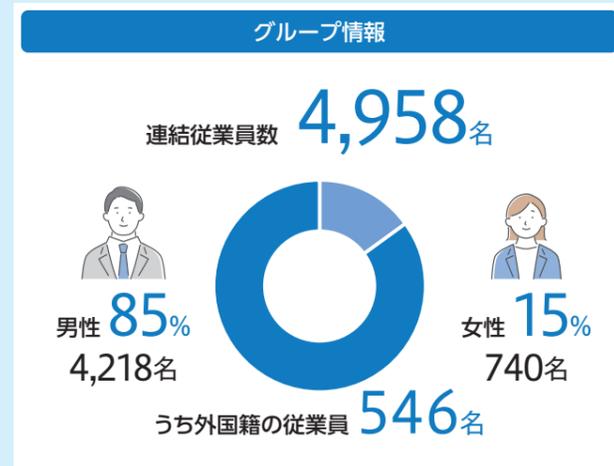


1株当たり配当額/配当性向



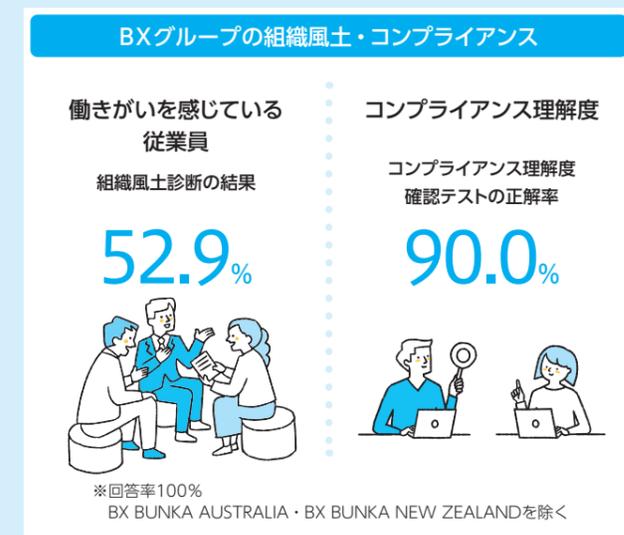
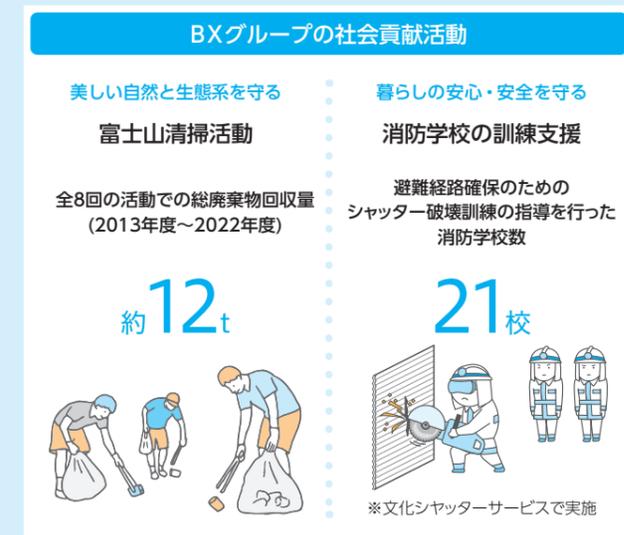
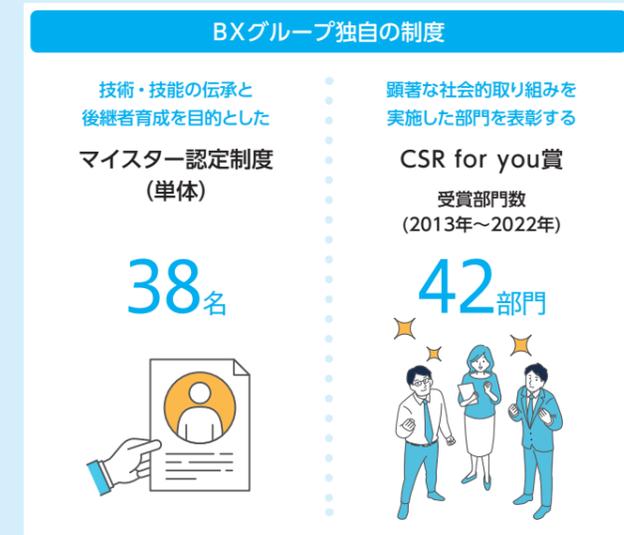
数字で見るBXグループ

※ 人的資本関連の数値は単体



※ BXグループ全体の数値

関連情報 ▶ WEB ESGデータ集



接着工法と軽量化で スチールドア業界の常識を変える



私たちの生活に欠かせない「ドア」。
スペースを仕切ることによって空間を創り出し、
演出するなどの役割があります。
私たちBXグループは、創業当初から
スチールドアをはじめとした多種多様なドアを通じて、
安心・安全や快適環境といった空間への
価値を提供しています。
当社では、多様化するニーズに商品のラインナップで
お応えする一方で、ドア業界全体が抱える課題に対して、
解決につながる商品開発にも注力しています。
特集では、昨年度販売を開始した
環境配慮型スチールドア「SGD」について取り上げ、
業界を巻き込んだ当社の取り組みについてご紹介します。



環境配慮型スチールドア「SGD」～スチールドアの新たな可能性～

2022年、公共建築工事のバイブルとも言われる国土交通省監修の「公共建築工事標準仕様書」にこれまで規定されていた組立方法「溶接」「小ねじ止め」と並び、「接着工法」が新たに記載されました。当社はこの追加記載に業界団体と連携し尽力すると共に、接着工法による軽量化を実現した環境

配慮型スチールドア「SGD」を開発、新たに販売を開始しました。 [関連情報▶ P21-22](#)
CO₂の削減による環境負荷低減と作業環境の改善による働き方改革を実現する「SGD」を通じて、脱炭素社会とSDGsの目標達成に貢献していきます。

特長

接着工法

スチールドアの戸の組立に、接着剤を使用する工法です。接着工法は、2022年4月国土交通省監修の「公共建築工事標準仕様書」で採用された新たな工法です。

軽量化

スチールドアの表面材などで使用する鋼板の厚みを1.6mmから1.2mmにして、戸を軽量化しました。一般的なドアサイズW850×H2,000mmでは、従来品より約25%の軽量化を実現しました。

溶接と変わらない品質基準

接着工法で製造された「SGD」は、当社の試験検証施設ライフイン環境防災研究所における各種ドア性能試験で品質基準が保証されており、溶接工法と変わらない性能を実証済みです。また、接着剤についても、日本接着剤工業会のご協力により、各種試験を行っています。

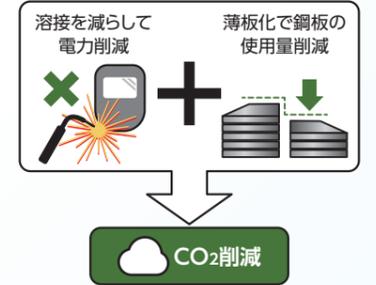


メリット



CO₂排出量を削減

接着工法と軽量化によって、使用する電力や鋼板の削減などにより、ドア1枚*当たり約35kg相当のCO₂を削減し、脱炭素社会の実現に向けて地球温暖化対策に貢献します。また、溶接によるスチールドアの製造と比べて、1枚あたり約60分の作業時間の短縮になります。
*ドアサイズW850×H2,000mm、当社従来製品比



耐食性の向上でサステナブル建築に貢献

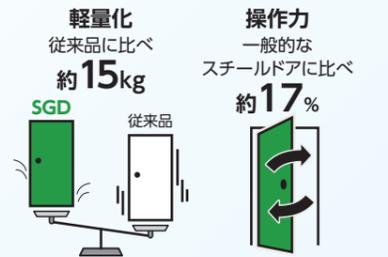
接着工法は、溶接痕を消すサンダー仕上げが不要なため鋼板のメッキ層を傷つけることなくドアを錆びにくく長持ちさせ、「サステナブル建築」に貢献します。また、溶接工法では扱いが難しかった色・柄のついた、いわゆる化粧鋼板対応の可能性が広がり、ドアの意匠性が向上します。

サステナブル建築とは



作業環境を改善し働き方改革につなげる

溶接や研磨作業を減らすことで溶接ヒューム* (有害性) や粉塵の発生を抑え、作業環境の改善に貢献します。また軽量化により、製造や運搬時の負荷を軽減し、働き方改革にもつながり、さらに使用者にとってもドアの操作性や使い勝手が高まります。
*アーク溶接等の作業時に発生する粒子状物質のガス



SGDとSDGs

自然・建物・人にやさしい「SGD」

		13 気候変動に具体的な対策を	11 住み続けられるまちづくりを	3 健康と福祉を
接着工法	溶接削減	> 使用電力を削減しCO ₂ の発生を抑制します	●	
		> 溶接ヒューム(有害性)を削減し、人の健康を守ります		●
		> 鋼板の表面(亜鉛メッキ)を傷つけず錆びにくくします		●
	軽量化	> 鋼板の使用量を減らし、製鉄時のCO ₂ の発生を削減します	●	
		> 工場や建設現場で働く作業者の負担を軽減します		●
		> ドアを軽くして、使用者の使い勝手を向上します		●
	> 物流の改善(ドライバーや運搬時の負荷低減、低燃費など)につなげます	●	●	

スチールドア業界の課題解決と市場の拡大に向けて

接着工法がスチールドアの新たな可能性を拓く

営業開発事業本部 ドア事業部 部長 上田 徹

文化シャッターではかねてより接着工法を採用したスチールドアを製造・販売してきました。接着工法は軽量化を実現するだけでなく、環境にもやさしく、労働環境の改善にもつながるなど多くのメリットがあるにもかかわらず、なかなか浸透しないことに課題を感じていました。また一方で、日本サッシ協会のスチールドア部会や中小企業委員会の委員として、全国に200以上ある中小スチールドア製造会社が抱える悩みに触れる機会も多く、業界が市場の需要に応え発展していくためには、接着工法こそが業界全体の課題である生産性の向上や働き方改革につながる一つの解決策なのではないかと考えるようになったのです。

接着工法を組立方法の一つとして確立させるために、そして接着工法でスチールドア業界の常識を変えるために、2020年6月、私たちの挑戦が始まりました。



溶接と変わらない品質を実証

「標準仕様書」への追加記載には、従来工法と変わらない強度や耐久性などの実証が必要です。各種実証は関係者立ち会いのもと、当社グループのBX鐵矢で行われました。

従来品と変わらぬ品質

商品開発部 開発四部 係長 永田 洋一郎

生産性と品質の高さを実感

国土交通省や公共建築協会のご担当者など、関係者多数をBX鐵矢の工場にお招きし、溶接工法の作業環境の過酷さをご理解いただくと共に、接着工法による生産効率の高さを説明しました。また、当社のライフイン環境防災研究所において接着工法で製造したスチールドアの各種試験検証にも立ち会っていただき、従来品と変わらぬ品質と性能の高さを確認していただくことができました。コロナ禍の影響が懸念される中ではありましたが、実際に現場をご覧いただけたことは非常に意味あることだったと思っています。



国土交通省の立ち会いによる接着工法検証確認の様子

国土交通省監修「公共建築工事標準仕様書」への「接着工法」追記を提案

建築工書のバイブルとも言われる「公共建築工事標準仕様書(以下標準仕様書)」への追加記載に向けて、文化シャッター、日本サッシ協会、日本接着剤工業会が協力し、動き出しました。

業界団体として立ち上がる

(一社)日本サッシ協会 中小企業・スチールドア部長 和氣 守克様

課題解決は迅速さが問われる

ドア、サッシ業界も、急激な社会環境の変化に迅速に対応していかなければなりません。当協会の会員にも、人材確保や処遇改善、生産性向上など恒常的な課題を抱える企業が多くあります。生産性向上をはじめ脱炭素社会の実現、環境配慮などに寄与し、またドア業界全体の課題解決に大きく貢献するであろう接着工法が「標準仕様書」に追加記載されることは、全国のドア製造会社の大きなエポックメイキングとなるはずだと考えています。



日本接着剤工業会の全面協力

セメダイン(株) 取締役 技術部長 秋本 雅人様

建築構造分野に一石を投じる

私自身、これまでゼネコンとの共同研究で建築構造に適した接着剤の開発に取り組んできた経緯があります。日本接着剤工業会の建設用接着剤協議会議長という立場からも、この挑戦には大いに賛同し、また惜しみなく協力させて頂きました。ドアの製造現場では接着剤の可能性を追求し、各種接着剤の試験・検証を繰り返しました。接着工法の追加記載は、建築構造分野で初めて接着剤を使用するという一石を投じることとなり、私たちの業界にとっても計り知れない価値となります。



「標準仕様書」への追加記載が実現

構想から約2年後の2022年4月、ついに「標準仕様書」に接着工法が記載されることとなりました。

国土交通省からは、生産性向上をはじめ、作業環境の改善や脱炭素社会への貢献などを高く評価いただいただけでなく、接着工法を現場での検証を含め、さまざまな角度から確認し、追加の可否を判断することができた、との感謝の意を頂戴しました。

しかし、接着工法が「標準仕様書」に掲載されたことはゴールではありません。これからは全国に普及促進させることが私たち文化シャッターの使命となります。

設備を選ばず採用しやすい工法へ

全国のドア製造会社が、設備や規模にかかわらず接着工法を採用できるよう、接着剤や工法の確立に取り組みました。

採用しやすい工法の確立

BX鐵矢 開発技術課(当時) 課長 田中 一三

アクリル系接着剤とアプリケーションの工夫

接着剤に関する知識がなかった私たちでしたが、多くの方々のサポートを受け、試行錯誤しながら試作を進めました。一番のポイントは使用する接着剤と接着作業の設備です。会社の規模に関わらず導入できるよう、常温かつ短時間で固まり、入手しやすいアクリル系の接着剤に着目し、さらに連続塗布が可能な小型のアプリケーションを採用することにしました。これにより簡単な作業で製造できる工法の基盤を確立させることができました。



アプリケーションを使用した接着剤塗布の様子



接着工法を全国へ

接着工法の標準化と一般化に向けて新たなスタートを切りました。

BXの強い思い

ドア事業部 顧問 西井 守

一般化への第一歩、そして普及促進が使命

接着工法が「標準仕様書」に掲載されたことは、一般化への第一歩とも言えます。接着工法をいち早く普及促進させるために、日本サッシ協会にもご協力いただき、各地で実演指導や研修会などを行いながらより多くのドア製造会社の皆様に接着工法の利点をご理解いただくよう、動き始めています。スチールドアの常識を変え、サステナブルな建材として社会に認知していただくことが当社が果たすべき役割だと考えています。



業界の成長につながる

(株)大東サッシ工業所 代表取締役 中村 秀一様

技術の伝承、そして新しいことに挑戦

会社は「人」です。若い社員には、ものづくりの素晴らしさを体感し、技術を磨き、そして伝承して欲しいと思っています。ただ、人を育てるのはとにかく時間がかかります。技術の習得に根気よく向き合うことも必要ですが、一方で人材が不足しがちな製造現場においては接着工法のように誰もが習得できる工法で受注への対応力を強化することも大事です。新しい技術に挑戦することは労働力の確保にもつながります。接着工法がドア業界全体の成長につながることを願っています。



環境配慮型スチールドア「SGD」販売開始

「SGD」の拡販で生産性向上と収益拡大をめざします。

環境配慮型スチールドア「SGD」を拡販することで脱炭素化や職場環境改善などに貢献できると考えています。接着工法は薄板化されることで化粧鋼板の使用が可能となり、ホテルの客室やマンションの玄関向けなど意匠性の高い商品展開が期待できます。当社では作業時間の短縮や軽量化による収益率向上を見込み、昨年7月より本格的に生産ラインを立ち上げ、接着工法の割合を増やす計画です。今後も多様化するニーズに応えながら、持続可能性を実現させ、常識にとらわれない発想でドアの可能性を追求していきたいと考えています。

